緒方春朔種痘成功二〇〇年記念事業報告

筑前秋月藩医、緒方春朔は、寛政二年（一七九〇）痘痂粉末を鼻腔より吸入させ接種する種痘法を完成、これを上秋月大庄屋天野甚左衛門の二児に実施し、我が国ではじめて人痘種痘法に成功した。これはジェンナーの牛痘法成功より六年早いことであった。さらに我が国最初の種痘書『種痘必順弁』『種痘緊轄』『種痘證治録』を著し、これを秘法とせず世に広く公開し、種痘の安全性、必要性を説いた。全国から春朔の種痘法の教えを請う医師数百名にのぼり、この種痘法が全国に普及し、後の牛痘法が我が国に導入される迄の約六〇年間、我が国の天然痘予防に貢献することとなった。また、この間、一部とはいえ医師や庶民にこの種痘という概念がもたれていたことは、後に牛痘法が我が国に入り急速に全国に広がったが、その基盤となったと考えられている。

今年平成二年は、この種痘法成功二〇〇年目にあたるため、地元甘木朝倉医師会は、福岡県医師会、福岡県立甘木歴史資料館と共催にて緒方春朔の済生救民の偉業を称えて顕彰事業を開催したのでここに報告致します。

一　記念顕彰碑建立

除幕式並びに記念式典　七月二十九日

レリーフ「緒方春朔、天野甚左衛門の二児に鼻乾苗法による種痘実施の図」

（彫刻家斎田文夫氏製作）

建立場所　甘木朝倉医師会病院前庭

建立者　甘木朝倉医師会、福岡県医師会

二　記念誌編集、発行

緒方春朔著『種痘必順弁』『種痘緊轄』の現代語訳（松岡彊氏訳）

三　資料展開催

『種痘の始祖、緒方春朔』展

とき　平成二年七月二十一日～九月二日
ところ　県立甘木歴史資料館

四　記念講演会
シンポジウム『種痘の始祖、緒方春朔先生に学ぶ』
講師　順天堂大学医学部医史学助教授　酒井シヅ
甘木朝倉医師会顧問　井上無限
元県立朝倉高等学校長　松岡　彊
九州大学文学部講師　柴多一雄
コメンテイター
久留米大学医学部免疫学教授　横山三男
司会　甘木朝倉医師会理事　富田英寿
とき　平成二年七月二十八日（土）PM2・00～4・30
ところ　甘木文化会館
約八〇〇名の聴衆に深い感銘を与え盛会に終る。また『シンポジウム講演記録集』を編集発行した。

五　広報教育映画製作
タイトル『種痘の始祖、緒方春朔』地域の各学校等に寄贈

六　秋月顕彰碑補修整備
昭和二年に当医師会が建立した顕彰碑を整備し、説明板を新に設置。

尚、今回の顕彰事業を機に数々の新知見が得られたことは、春朔先生を敬う何よりの顕彰となったと考えられる。

一　ドイツ衛生博覧会出展後、伝染病研究所に寄贈され、行方不明となり戦災で焼失したものとされていた春朔の遺品が、大塚恭男先生の御尽力で北里研究所で発見されたこと。

一　春朔の第三の種痘書『種痘證治録』が発見されたこと。

一　長い間、議論されていた『種痘必順弁』の順について「順」か「須」かの問題は、今回の顕彰事業に伴う調査やシンポではっきり「順」と決着がついたこと。

一　春朔の種痘法が幕府から認められていただけではなく、当時の朝廷（小森典薬頭）からも認められていた事実がはっきりしたこと。

一　天野甚左衛門の墓地の所在が判明したことなどであります。

このたびの記念事業に引き続き、甘木歴史資料館に、常設の「緒方春朔コーナー」を設置しました。今後も地元先達の偉業を偲び、我々医師を初め、医療関係者の医学、医療に対して気構えを新たにするとともに、地域の人々、とくに次の世代を担う子供達にもこの先達の偉業を広く知らせ、郷土に誇りを持ち新しい世代、社会を切り開いていく糧にしてもらいたいと願い息の長い活動をして行く所存であります。

（甘木朝倉医師会理事　富田　英寿）

第一五回谷口財団国際シンポジウム

一五年前の昭和五十一年、故・小川鼎三先生と東洋紡会長・谷口豊三郎氏の深い友情に支えられて始められた「国際比較医学史シンポジウム」（The international symposium for the comparative